

◀ 現状のまとめ ▶

【住民・事業者の声・ニーズ】 （市民アンケートから） ● 今後のまちづくりとして、「買い物などの日常生活の便利さ」、「産業の充実」、「公共交通やインフラ整備等の利便性向上」、「働く場所・環境の充実」、「医療機関や福祉施設の利用しやすさ」、「自然災害が少ない、災害に強いこと」、「治安がよいこと」等が求められている。 ● 「行財政運営の効率化と健全財政の確保」、「労働環境の充実」、「商工業・サービス業の振興」、「都市基盤の整備」の施策は特に重点的な改善が望まれている。 ● 10年後のまちの姿としては、子どもが増えることや駅前の活気、人が集まることなど、まちのにぎわいや活力が求められている。 ● 出産・子育てに対しては、「出産や子育てに対する経済的支援」、「歩道や遊び場、子育て支援施設等の充実・安全性の確保」、「子育て支援制度の機能、サービスの強化」等が求められている。 ● 若者が希望する就職先は男性が「情報通信業」女性が「医療、福祉」となっており、坂出市にあるかどうかについては「あるかどうかかわからない」が最も多くなっている。 （事業者アンケートから） ● 「将来問題になる」を含めると 75%の企業で人材不足が課題と認識しており、その対策として、労働環境の改善等が行われている。 ● 市の各分野に対する取組について「わからない」とする回答が最も多く、周知が必要。 ● 女性の活躍という視点に関心がない企業もあることから、人材確保の視点で、更なる女性が働きやすい環境の整備が必要。 ● DX の推進状況については、回答企業の約 63%で取り組めておらず、推進にあたって、人材確保や予算確保が課題となっている。 ● 今後のまちづくりとして、「人口増加に向けた取組」、「にぎわい創出」等が求められている。 （市民ワークショップから） ● 病院があるが子どもが遊べるところが少ない。公園や球技場の更なる充実を期待。 ● どんな働く場があるのかわからない。工場が多いイメージ。情報系の会社がない。 ● 目立った観光スポットも少ない。発信もできていない。宿泊場所もない。 ● 高校生などの若者が輝く、活躍できる場の創出。外国人との共生。
【現況分析】 ● 人口は今後も減少していく見込み。特に 21～29 歳の女性における転出が顕著。 ● R4～5 年においては、人口の自然減が拡大しているが、外国人の転入増加により社会増の状況にある。 ● 出生率、合計特殊出生率ともに県平均より低い水準。男性の平均寿命は全国・県平均より短く、自然減が加速する状況にある。 ● 2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、温室効果ガスの削減がより必要。 ● 公共交通の維持や公共施設・インフラの更新等が求められる。 ● 利用用途のない空き家が増加傾向にあり、空き家対策・利活用の推進が求められる。 ● 就業者数が減少傾向にあり、特に 1 次産業は高齢化、経営体数の減少などもみられ、産業の維持が大きな課題。 ● 商工業は事業所数が減少。工業は販売額も減少傾向にあり、産業の活性化、高付加価値化が課題。
【各課による課題認識（施策評価結果）】 （働く環境、働き手） ● 全般的に労働者不足。人材の不足が課題。 ● 暮らしや健康面含め、働きやすい職場づくりの推進が必要。 ● 企業における DX 化が進んでいない状況。働きかけ、アプローチが必要だが、事業者自身への補助・支援は制度がない。 （施設の老朽化への対応、マネジメント） ● 公共施設全般の老朽化が課題。（管理・運営も含む）施設マネジメントの観点での取組が必要。 （民間との連携） ● 公民連携の強化。様々な分野において、民間活力の導入が課題。 （にぎわい創出） ● 坂出駅を中心とした「まちのリビング」となる居場所の創出。 （持続化・社会環境） ● カーボンニュートラルの観点での取組が必要。カーボンニュートラルポートの形成。 ● 温室効果ガスの排出量削減。

◀ 共通する課題＝重点的に取り組む課題 ▶

重点課題 日常生活の利便性の向上やにぎわい・活力創出が必要 ・ 市民アンケートでは、「買い物などの日常生活の便利さ」を求める声が多く、本市施策については「商工業・サービス業の振興」が特に重点的に改善が望まれている。 ・ 10 年後のまちの姿では、人口減少の懸念から、まちのにぎわいや活力が求められており、新たなまちづくりの担い手が必要とされている。 ・ 現在整備を進めている駅前拠点施設は約 72%が利用したいと回答しており、カフェやラウンジ、図書館機能が期待されている。
重点課題 働く環境の充実が必要 ・ 市民アンケートでは、本市施策については、「労働環境の充実」が特に重点的に改善が望まれている。また、若者は男性が「情報通信業」、女性が「医療、福祉」への就職を希望しているが、坂出市にあるかどうかは「わからない」が最も多い。 ・ 生産年齢人口の減少により多くの企業で人材不足が喫緊の課題となっており、特に 21～29 歳の女性の転出が顕著である。 ・ 働き手が求める企業と求人先企業が求める人材とのギャップから、ミスマッチが生じている。女性の活躍という視点に関心がない企業もあることから、若者や女性などの働き手のニーズに柔軟に答える労働環境の整備が必要である。
重点課題 様々な分野に新技術等を取り入れ、持続可能な環境づくりが必要 ・ 市民等から、暮らし全般の利便性や安全安心なまちづくりが求められている。 ・ 事業者アンケートではDXの推進状況については、約 63%で取り組めていない状況にあり、企業におけるDX化が課題である。 ・ 人口が減少する中で、様々な分野に DX をはじめとした新技術等を導入し、多様な課題解決を促し、暮らしの利便性向上につなげることが必要である。 ・ 2050 年カーボンニュートラルの実現には、更なる温室効果ガスの削減が必要である。